



## オタマジャクシのしっぽはどうなっていくの

### しっぽはだんだんちい小さくなる

オタマジャクシに足あしが出でそろうと、しっぽはだんだんちい小さくなりはじめます。陸りくに上あがったとき、ちょっとだけついていても、すぐになくなります。体からだのほかの部分ぶぶんを作る栄養えいようとして、吸収きゅうじゅうされるのです。

### 足あしが出てからしっぽがなくなる

生まれたばかりのときは、オタマジャクシは、集あつまってかたまりうごになって動うごいています。体からだがだんだん大きくなると、少しちらばってすむようになります。このころになると、後うしろ足あしの出あしはじめたオタマジャクシや前まへ足あしまで出でているものなどがみつかると、足あしが出でそろうまで育そだつことのできたのは運うんのいいオタマジャクシです。兄弟きょうだいの多くはほかの生いき物ものに食たべられたりして死しんでしまったことでしょう。

足あしが出てきたら、次つぎはしっぽをみじかくしてカエルになる準じゅん備びです。無ぶ事じにカエルにまで育そだつには、まだまだ危き険けんがいっぱいです。

### イモリは足あしが出でそろうても、しっぽはそのまま

イモリの子こどもも、オタマジャクシかたの形かたちをしています。しかし、カエルとちがって、足あしが出あしてきても、しっぽはそのまま残のこります。（監修・中山 周平）

